

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

Q 今年は台風や大雨が多かったですが、除染で出た廃棄物の保管に影響はないのでしょうか？

A 市では中間貯蔵施設が完成するまでの間、除染で生じた廃棄物は大型の土のう袋などに入れて仮置場で全て保管しています（平成 27 年 9 月末時点で 56,375 袋保管中）。仮置場に搬入された除去土壌は、地下水の汚染防止のため、下部に遮水シートを設置し、上部に放射性物質に汚染されていない土を厚さ 30 cm 覆土し、防水用の遮水シートなどで覆うことで、除去土壌から出ている放射線の 97% 以上が遮蔽されると考えられています。

仮置場の管理については、場内の空間線量測定を定期的実施するとともに、地下水の放射性物質濃度の測定を月に一度行っており、これまでに地下水から放射性物質が検出されたことはありません。また、光陽地区仮置場内の 11 月 2 日の空間線量は 0.07 ～ 0.04 μ Sv/h であり、同日 8 時の光陽サッカー場の空間線量が 0.15 μ Sv/h で、周辺の空間線量と大きな違いはありません。

光陽地区では、仮置場周辺 13 カ所の空間線量を毎日測定しており、測定結果を市ホームページや広報そうま（15 日号）に掲載しています。

Q 年末年始は県外への旅行を考えています。原発周辺の高速道路（常磐富岡～浪江間）を通過して健康に影響はありませんか？

A 平成 27 年 1 月に国が実施した開通前の調査では、常磐富岡 IC から浪江 IC の間（14.3 km）を自動車（時速 70 km）で 1 回通行する際に運転手が受ける被ばく線量は、0.17 μ Sv と計測されています。これは、胸のレントゲン写真を 1 枚撮影する際の被ばく線量（1 回あたり 60 μ Sv）の約 340 分の 1 の量です。確かに、高速道路上では空間線量がやや高い場所を通過することになりますが、通過時間が非常に短いため、合計としては身体に受ける被ばく線量は少なくなり、たとえ自動車の事故や故障によって車外に 1 時間待機しなければならないような場合であっても、被ばく線量は 6.4 μ Sv（胸部のレントゲンによる被ばく線量の約 10 分の 1 の量）程度となります。

日本国内を飛行機で移動した際に受ける被ばく線量（約 2 ～ 4 μ Sv ※搭乗時間や飛行高度により値は変動します）と比較しても、むしろ車で移動の方が低めの値であると考えられます。

もちろん、いくらでも被ばくしてよいという話では決してありませんが、常磐道の利用において体が受ける被ばく線量は、健康に影響を与えるレベルよりも十分低いです。

※常磐道における放射線の最新情報は、NEXCO 東日本のホームページ（URL：http://jobando.jp/）に公開されています。

出典：▽環境省「保管場所ってなんで必要なの？」▽ネクスコ東日本ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの 放射性物質測定結果

●10月分

▽測定件数 測定件数 127件

（内訳：野菜 19件、果実

94件、魚 3件、その他 11

件）

▽基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受

けている食品（11月9日現在）

▽クリ▽くさそてつ（こご

み）▽たけのこ▽ふきのとう

（野生）▽ぜんまい▽たらの

芽（野生）▽原木しいたけ（露

地）▽原木なめこ（露地）▽

野生きのこ▽こしあぶら▽う

ど（野生）▽牛（県の定める

出荷・検査方針に基づくもの

を除く）

※最新の情報は、福島復興ス

テーションホームページ内

の「農林水産物の緊急時環

境放射線モニタリング結果

【詳細】でご確認ください。

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/

mon-kekah.html

◎これまでの食品の検査結果

（相馬市ホームページ）

http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/

index.html

●問い合わせ先 放射能対策

室（☎ 37 2270）